



スキー協通信

東京都勤労者スキー協議会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル4F 03(3971)4144
 ホームページ：<http://www.tokyoskikyo.org/> E-mail：info@tokyoskikyo.org
 ゆうちょ銀行口座： 00110-7-88004 (東京都勤労者スキー協議会)
 00140-5-659281 (東京スキー協スキーメイト係)

No.396

発行
2017.8.1

発行責任者
出崎福男

創立 50 周年を “600 人の会員で迎えよう!”

東京スキー協第 50 回定期総会開催

6月18日(日)、豊島区の帝京平成大学池袋キャンパス内集会室において、東京スキー協第50回定期総会が開催されました。

参加者は62名(役員29名、代議員31名、傍聴者2名)、来賓として、共産党東京都議会議員の小竹ひろ子さん、新日本スポーツ連盟東京都連盟理事長の萩原純一さん、全国スキー協理事長の小川洋さんが出席、激励と連帯の挨拶をいただきました。議長に村本さん(シュプール)と梶並さん(中野スノー)、他の総会役員を選出、出崎理事長が49期活動報告及び50期の活動方針を提案、吉田副理事長から49期決算報告及び50期予算案の提案が行われ討論に入りました。

討論では今回3つのテーマ(①会員拡大のために必要なことはなにか、②会員の高齢化に伴いもとめられること、③技術向上の重要性と指導員の役割)での集中討論と全体討論が行われ、16名から19回の発言がありました。これらの発言について、出崎理事長がまとめを行い、その後の採決で全議案を可決・承認しました。最後に役員選挙が行われ、会長、副会長3名、理事32名、会計監査2名を選出して閉会しました。



《選出された役員の方々の皆様》
 会長：市川正幸(再)どさんこ
 副会長：海野 茂(再)トライアルファミリ
 〃：小川 洋(再)みなとしゆぶる
 〃：福島 明(再)シーハイル
 理事長：出崎福男(再)コロポックル
 副理事長：吉田安信(再)スノーモンスター
 〃：石黒 健(再)トライアルファミリ
 〃：車田夕紀子(再)観馬ヒューマン

目次

第50回定期総会発言集／乗鞍サマーキャンプ報告	2-12頁
山スキー委員会より	13頁
教育技術局からのお知らせ	14頁
訃報／Information	15頁
8・9月のカレンダー	16頁

市川会長、来賓の小竹ひろ子さん、荻原純一さん、
全国スキー協 小川洋さんの挨拶、出崎理事長の
討論のまとめを掲載します。

会長挨拶 市川正幸東京スキー協会会長

おはようございます。
東京スキー協の総会は50
回、半世紀になりました。
今、スキー界では、どの
ようにしたらスキー人口
を増やしていけるのかと
いうことをスキー場だと
かいろんなところでいろんな試みがなされているが、
スキー協ではどうかということで、今年、東京スキー
協では、先シーズンの総会以降に活動状況をまと
めて報告したり、全国スキー協では、お配りしてい
る資料の中にあるように、会員のみなさんがスキー
協をどのようとらえているのかについて会員アンケ
ートを実施しました。



今、スキー協では高齢化のため、クラブの活動が
困難な状況になっていることがいろいろと寄せられ
ています。スキー行事にして参加人数が少なくなっ
てきて、クラブ単独での行事が取り組めないという
状況もあります。やれるところはやるという形で
クラブ合同の行事が取り組まれ、いい結果が出たと
の報告もあります。クラブ行事を含めて、どのよう
な形で成功させ、どうやって会員を増やしていくの
かなど、この総会の中で交流し合いながら、クラブ
の活動に結び付けていってほしいと思います。長時
間ですけど、いろんな意見をクラブに持ち帰って、
今シーズンよい活動ができるようご協力お願いいた
します。

来賓挨拶 新日本スポーツ連盟都連盟理事長 荻原純一さん



おはようございます。50
回目の総会ということですが、50年の永きにわたって、
誰もがスポーツができるよ
うにということのでんばっ
てこられたスキー協の活動
にまず心から敬意を表しま
す。私たち東京都連名は昨年4月22日に創立50周

年を迎えましたが、この50年の中で、スポーツは権
利だということで、スポーツ連盟がずっと運動して
きて、すべての人がスポーツを通じて幸福で豊かな
生活をするということがすべての人の権利なんだと
いうことを基本理念とするスポーツ基本法ができた
しました。これは大きな変化です。ここは一つ押さえな
いといけないと思います。

スポーツ連盟では10%、450人の組織拡大をしよ
うという目標を掲げました。みなさんのスキー愛好
家、スポーツ愛好家の回りでスポーツをやってみた
い人に多面的な運動を工夫してやっていくことをお
願いしたい。

2020年オリンピックについてですが、大会経費1
兆3500億円と言われてはいますが、その詳細、何
にどれだけかかるかということがわからない。都民
が赤字をかぶって大事な税金がそんなところに使わ
れないように、そういう点でもみなさんと力を
合わせていきたいと思っております。ぜひ東京スキ
ー協が2倍3倍に大きくなって来年また会えるよう
に期待して、連盟の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶 日本共産党 都議会議員 小竹ひろ子さん

みなさんおはようござ
います。今度で若い人にバ
トンタッチすることにな
りまして今がんばって
いるところです。どうぞよ
ろしくお願いいたします。
東京スキー協の第50回



の総会ほんとうにおめでとうございます。スキー協の
みなさんには平和スキー祭りだとかでお世話になっ
ておりますが、文京区の後援会のスキーにはスキー
協のみなさんに大変お世話になっております。ほん
とにありがとうございます。

共謀罪が一昨日強行されましたけども、加計学園、
森友学園の問題についても、首相があれだけ政治を
私物化しているのは国民の目にはあきらかなのに、
証人喚問等もしないですり抜けて、自分たちにどう
しても必要なものは強行採決するという、こういう
流れに対してやっぱり国民が意思表示するのを代表
して都民が今度の7月2日にきっぱりとした審判を
下す戦いにしなければならないと思っています。

スキー協としては政党支持の自由がございますか

ら、要求でぜひ日本共産党にご支援をお願いし、スキー協のますますの発展をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶 全国スキー協 小川洋理事長

みなさんおはようございます。全国スキー協は先日代表者会議を開催しました。その中で全国スキー協として17年前にも全クラブ向けアンケートを行ったが、全会員を対象にしたアンケートを今回初めて行いました。手元に東京、全国のアンケートの集計資料があるので、時間を頂いて説明します。



全国は26都道府県、北は北海道から南は福岡まで組織があります。会員が2900人くらい。回答は1372人、全国的には約49%の回収率。東京都は580人ぐらいの会員、回収は186人、回収率約33%、全国より若干少ない。

まず、みなさんが気になる年齢構成ですが、今、東京スキー協の中心は60歳の男性が一番多い、その次が60歳の女性。2000年のアンケートのときに一番多い層は40代、50代だったので、そのまま20年たって横にスライドしたという状況が分かります。特徴的なのは50、60、70歳を比べた時に、特に女性は50代はそんなに多くない。60代がどんと増えています。定年退職、だんなの定年退職でちょっと楽になって、そろそろ昔の杵柄でちょっと始めてみようとかで、60歳になってスキー協に入って、それで10年くらいして体力が落ちてスキー協をやめていくというのが顕著に表れていると思います。

それからもうひとつ、一番やってみたい種目が、全国は「山スキー」ですが、東京は「深雪をやりたい」というのが多い。次にネイチャースキー、4番目にアルペン種目となっています。全国でも同じような傾向で、自然派志向が増えています。これは、これからのスキー協の方向のヒントになっていくのではないかと考えています。

クラブに加盟した理由では、「スキー・スノーボードが上達したい」なんです。ところがクラブの良いところになると、「民主的な運営、交流会が楽しい」となっています。上手くなりたくてクラブ

に入ったのに、入ったらうまくなるよりも飲み会が楽しい、と。それでいいんでしょうか。スキー・スノーボードが上手くなりたいが一番になるように考える必要があるのではないのでしょうか。

「どこでクラブを知りましたか」では、友人知人が多く、インターネットは微々たるものです。HPの対応等が遅れているということではないのでしょうか。

「スキー行事に参加していますか」については、参加しているが37人。飲み会には参加するけど、スキーには行かない、親の介護や、土日が仕事で他の人と日程が合わないとの意見が寄せられています。全国的には「平日スキーを取り組んでほしい」「中高年の技術向上の行事をやってほしい」「子どもスキーをやってほしい」という意見が多く、そういう部分をどう取り上げていくかが大切なことだと思います。ぜひこの資料を活用してほしいと思います。

50周年記念ウィークの企画のことですが、先日の代表者会議で2019/3/1-10、キューピットバレイで開催することを決定しました。初日は全国大会のGS、SL、平日はスノーウォークや運動会など、実際に何をやるかなど意見が出ています。大いに50周年を祝おうと思います。そのほか教程の改定、スキーウェア製作なども行います。なんとか会員を増やして50周年を迎えたいと思います。

先ほどから政治情勢などが話されていますが、毎年平和行進が行われており、5月6日に記念館を出発して、通しで歩いて広島に向かっていきます。その中に滋賀スキー協の会員、西田さんが参加しています。私も短いですが、川崎の市役所まで歩きましたが、こういう取り組みが大事だと思います。やはり平和でなければスポーツはできない。世界的には国連で核兵器廃絶、それに対して日本政府の対応がひどいものだと思います。平和を大切にしながらスポーツも取り組んでいきたいです。本日は1日よろしくお願いいたします。

討論のまとめ 出崎理事長



まとめを行っていきたいと思います。本日最初にテーマ別討論、それと全体討論が行われ、延べ19人の方が発言されました。非常に活発な討論がされたと思

ます。全体としまして、方針に対して反対意見というのは基本的にはなかったと考えています。いくつかご提案等頂いた点について、述べさせて頂きたいと思います。

- ・会員拡大に関するテーマの中で、50周年を600人で迎えようという事で、現状でいきますとおおむね各クラブ平均1.5人を増やすという事で、この提案を積極的に受け止めて、私たち先頭にたつて各クラブのみなさんに会員拡大を呼びかけ、また、一緒にかんばっていききたいと思います。
- ・組織評価、高齢者のスキーに関する専門部会設置、これにつきましては現在ある部局の中で行うことも含めて、今後の会議の中で具体的な課題として取り上げて検討していききたいと思います。行事の赤字に関しての見直しですね、なかなか難しい点がありますけど、参加者をもっと増やせないか、あるいはコストを下げられないか、さまざまな工夫を行っていききたいと考えております。
- ・指導員受検でのストレス、負担の問題提起もございました。これにつきましてはなかなか難しい問題ではありますけど、所属クラブ、また東京スキー協のスタッフを含めて、受ける方々への励まし、ケア、いろいろなアドバイス、そういうことで気持ち的な負担を軽減できることがないか、これも検討課題としていききたいと思います。
- ・クラブ行事の交流をもっと豊かに進めてほしいと、それにつきましては、しくみはHPを使うかたちになりますけど、またあらためて通信等を通して他のクラブの紹介をしたい。一般に紹介したい行事を東京スキー協として募っていききたい。またあらためてやっていききたいと思います。
- ・スノーボードに関して指導員を受験させたい、という積極的な意見がありましたけど、それは東京ではなかなかできないので、全国と連絡を密にとっていろいろな情報提供、具体的なアドバイスがあれば、取り入れて取り組んでいききたいと思えます。以上で論議のまとめとさせていただきます。

以下、テーマ別討論の発言です。

テーマ別討論

《1》 会員拡大のために必要なことは何か

田畑 健さん（こなゆき）



私のテーマは、東京スキー協50周年を600名の会員で迎えようという極めて現実的な提案です。私たちのクラブは40周年を迎えまして去年10月23日、新宿で記念レセプション

を開催し、37名が参加しました。ご出席頂いた皆さんありがとうございました。

私たちのクラブは1976年に東京スキー協の正月行事、はるひのスキーという行事に参加した五十嵐コーチの受講生有志で作り、東京スキー協に加盟しました。それから40年たったわけですが、ちょうど40名の正会員で迎えることができました。正会員の他に読者会員や準会員がもう10名くらいいます。

この40年間なぜ続いてきたのか、考えてまとめてみました。ひとつはこなゆきスキー祭りを毎年やってきたこと。多いときは80数名少ない時で20数名。でこぼこはありましたが、スキーの楽しさを広める上でスキー技術の向上を図り、仲間を増やしてきたことが第一。それに加えて、悠々スキーと新深スキーをこの10年くらいやっています。悠々というのは平日に温泉に入ってゆっくりとスキーを楽しむのが中心。新深というのは、新雪を滑るのを主なテーマに行っています。この3つがこなゆきの恒例になっています。

もうひとつはオフシーズンも毎月1回以上の登山、ハイキング、ゴルフ、サイクリングなどのスポーツ行事を企画実施して通年スポーツのクラブを実行してきました。会則にも毎月1回以上の行事とありますが、6月は総会があるので、スポーツはやっていません。会則違反です。（会場笑）3つめに会報こなゆきを毎月発行して、クラブ会員とコミュニケーションをしてスポーツを文化として育ててきたこと。

4つめに毎年総会で正会員の自主的な登録を行い、活動報告、活動行事計画、決算、予算、役員改選など、クラブの民主的な運営に努めてきたこと。これは非常に大事なことです。5つめに東京と全国のスキー協に役員を送り出して、人材の面でもスキー協の活動を支えてきた。こういうことが40年間続いてきたことの教訓かなと思います。

今回の議案書を拝見して、事実関係については大変充実した方向が載せられていますが、組織活動につ

いては、分析が足りない。たとえば、わかきスキート同人が49期で退会されています。アタックが48期に退会されています。ホワイトベアは49期会員0、板橋SCは49期が空欄、その代わりにチームスポーツ板橋が4人で49期で参入しています。こういうことについて、なぜ退会したのか、なぜ新しいクラブが出来たのかというあたりの分析が報告の中で展開されると参考になるんじゃないかと思います。全体を通して方針案に賛成しますが、技術と同様に組織の面での活動をもっと強化して頂きたいと思います。

鈴木正之さん（てんとおむし）



私たちのクラブは創立して12年になります。最初は3人でなんかはじめようということで始まり、平和スキー祭りに参加して、海野さんに相談し、東京スキー協に入ろうと

いうことで、男5名、女3名で始めました。現在正会員39名、家族会員などを入れると48名です。

どうやって48名の会員になったかを話してみたいと思います。去年初めて、いままでできなかった簡単な通信を作り、行事に参加できない人にもニュースを届けるようにしました。毎年5月の最終週に総会を開き、一年間の行事を決定する。どの行事に参加できるかアンケートを取り、大型バスかマイクロバスかの計画を立てます。豊の上でできるものとして、ポジショニングの練習やスキージャーナルのDVDを利用。シーズンが終わってからは、今年はどんなスキーができたかななどを討論している。また、年2回スキーセミナーを行っている。クラブ行事では、去年は6月にハイキング、10月にバスハイキング、11月に20名の参加でスキーセミナー、1月は志賀高原へ。長野まで新幹線で行き、長野から志賀高原までマイクロバスをチャーターして往復4000円で済んだ。帰りも時間ぎりぎりまで滑れるメリットがある。また、スキー・スノーボードを楽しむ会、今年は37名が参加。2月は石打。石打まで各自新幹線で、駅からは宿車で送迎。3月は尾瀬岩倉。マイクロバスで26名が参加。ほとんどの行事がマイクロバスや新幹線利用となっています。みなそうだと思いますが、高齢者は自家用車では危ないので、避けている。こういう中で、大型バスでのスキー、スノーボードを楽しむ会でスキーの楽しさを知ってもらっています。

すべて教室方式で、自由に滑ることはしません。指導員も一般会員も参加費は同じ。一般参加者から謝礼をとる声があり、リフト代を支給しています。バスの中で今回のスキーはどうだったか、意見を交換。会員になるよう誘うことはしませんが、参加した人から入れてくれと言ってくる。新しい人からの意見は、スキーに対して熱い、参加費が安い、指導員が親切で一生懸命教えてくれる、との声が出ている。新しい人は、いいクラブを見つけたと、仲間を増やす。そろそろ会員を増やすのはやめようかな、と思っています。（会場笑）

小柳光雄さん（モルゲンローテ）



私たちのクラブには40歳のスノーボーダーが1人います。指導員になってもらえたらと思っています。スノーボーダーというのは我々から見ると緩やかな人間関係があつてたくさん周りに仲間がいる。その人

たちをなかなかスキー協に入れることができないが、ぜひ彼にはスノーボードの指導員になってもらいたい。スノーボードの指導員に彼をサポートしてもらって指導員になってもらいたいと思っています。クラブとしてもスキー行事だけでなくスノーボードの企画もしてみたいが、東京スキー協でも例えばテクニカルフェスタやスノージャンボリーでも謳い文句としてスノーボードの教室もあるんだよということで計画してほしい。スノボ教室は春スキーでもやっていて、行事でも2つクラスを作りたいが指導員が1人しかいないので経験者だけしか受け入れができない。スノーボード指向は非常に強いので、これからも考えていきたい。

競技スキー委員会の活動を活発に展開してもらっており、競技大会に参加しています。指導員ではない、一般会員の技術向上指向が非常に高いことを表していると思うし、参加者からはとっても良かったとの声があります。どうしてもクラブ単独だと、技術向上がなかなかできづらい。スノージャンボリーの教室もある程度の技術がないと参加できない、ということがあるので、それを含めて。スノージャンボリーが3月中旬なので、クラブ行事があつて参加しづらい。日程も考えてもらいたいと思っています。

長谷川保一さん（コロポックル）



田畑さんのご意見に刺激を受けました。組織が拡大しているところは必ず緻密な準備をされている。こなゆきであれば毎月カラーの機関誌を発行して呼び掛けている。いつもいつも会員をとら

える努力をしていかないと、またスキーシーズン以外にも行事を努力していかないと、スキー人口が小さくなっている。会員を増やしていく、会員を減らさない、実に緻密な準備をしているなぁと機関誌の裏から読み取れる。準備は労力の要ることだが、それをやらないとどんどん目減りしていくんじゃないかと思う。わかくさというクラブがなくなった。このクラブは以前はバス 3 台で行事を行っていた。努力をしていないわけではないが、勢いだけでは続かない。600 名で、ということだが、東京スキー協としても、何をやらなければならないのか、専門部会でも立ち上げてやる必要があると思います。

コロポックルは二足の草鞋（スキー協と SAJ）でやっている。一人ぼっちのスキーヤーをなくそうについて、もう一度考え直す必要がある。あらためて名称はともかく組織強化委員会を立ち上げることを役員のみなさまに提案をします。

テーマ別討論

《2》 会員の高齢化に伴いもとめられるもの

田畑 健さん（こなゆき）

こなゆきでは 2001 年の大人の休日クラブから取材を受け、休日クラブの会報に紹介されたことから、問い合わせが 30 件くらいあり、そのうち 10 人が入会した。2012 年、10 年ほど立ってほとんどの人がスキーができなくなっています。75 歳が目安かな、と思います。

私は 81.5 歳。これは新宿区が出したチラシだが、新宿区民の健康寿命について書かれている。男性の平均寿命は 83.95 歳、健康寿命が 80.65 歳。寝たきり、健康でない寿命は 3.3 年。女性は平均寿命は 89.37 歳、健康寿命が 82.67 歳、健康でない寿命は 6.71 歳とのデータがある。女性のほうが長生きするが寝たきりの状態が長い。いかにして健康寿命を延ばすかが、今の高齢化社会のテーマ。新宿区が言っている

のは、いろんなものを食べよう、あちこち出かけよう、ということです。

スキーは健康寿命を延ばすのにどのように役立つか、そのために呼び掛けている。私自身は 90 歳までスキーがしたいが、ケガをしない、ということが大事だと思う。高齢者のスキー指導と言ったら大げさだが、みんなの経験を出し合って作ったらどうか。宿舎での過ごし方、こういう天候のときはスキーはやらない、とか、滑り方についても。高齢者のスキーの心得。というのを 50 周年までにできたらいいと思う。一気ににはできないので、スキー協通信などに経験をたくさん載せて、それを技術部などでまとめたら良いと思う。子どもスキーについても心得が欲しい。こういう援助が必要ではないかと思います。

芦田 潔さん（シュプール）

伊藤さんが技術部でスキー協も引っ張っている。指導員受検関係で他クラブにも関わっている。クラブ行事のテニスは成功していない。

ケガをしない、という点では十分な対応できていないが、これからのテーマとしては、準備体操をしっかりやり、スピードを追わない、みんなで楽しむことが大事だと考えています。クラブの技術部会で検討したことがあるのだが、普段何も準備しないでスキーに来る人がいる。このような時は、休憩をよくとるとか、疲労が残らないようにストレッチをすることが必要だと思います。



上林幹雄さん（エーデルヴァイス）



会長になって三期目を迎えます。初めてこういう場所に来たものですから、通告用紙と聞いて、労働組合的な固いところだなあと感じてびっくりしました。（会場笑）今日どこのクラブも 1 人は発言しないとイケないと増田さんに聞いてきました。会員拡大という点で、とくにアンケートの集計結果を見て、どこも同じなんだなぁと思いました。「あなたが加入しているクラブの良いところはなんですか」というところに会員拡大のヒントがあるのでは、と

思いました。先ほど話題になりましたが、スキー・スノーボードが上達したいが多いのは当然ですが、行事内容が豊富 283 人、定例会・例会 358 人、この結果を見ると 40 代、50 代、60 代あたりの方、リタイアした方は、人と人とのつながりを求めていると強く感じました。

創立 40 年を迎えるが、毎年バスを仕立てて行事をしています。38 回の昨年、大型バスを仕立てられなくて自家用車の方法をとったら、参加できないとキャンセルもあった。反省している。今年 2 月の祭典では、中型バスを仕立てて 17 名で実行した。クラブ外から 5 名の参加者がいたが加入していない。私たちの押しも弱いし、反省をしています。30 代、40 代を当然ターゲットにしているし、クラブに入ってもらいたいが。人と人とのつながり、交流ということにヒントがあるのかなと思う。宣伝方法はいろいろあると思うが、一つ一つのクラブで手を打つばかりじゃなく、具体的な方法を出してもらえればいいのかと思う。一度参加した人に粘り強くぜひクラブに入ってほしいと働きかける努力が必要。なんとか 1 名でも 2 名でも増やすためにみんなで協力する必要があると思います。

もう一つは、クラブ行事を続けていくには、マイカーの運転手が必要だが、小さいクラブ、会員数が少ないクラブには深刻な問題で、JR など、公共交通機関を使って日帰りの行事をするなどを考えています。そういう意味で会員拡大はみんなで協力していかないといけないかな、と思っています。ケガをしたりでやめる人もいますが、声をかけつながりを保つ、スキー場に行ってもスキーだけでなく、温泉などリタイア組ともつながって。高齢者というと耳が遠くなるが、そこらへんも関係がしてくるかもしれない。なにを言っているかわからない、など仕方ない部分もあるかもしれません。

矢口政武さん (ラ・ランドネ)



山スキーをやっていたんですが、だいぶ自分の身体そのものがボロボロになってきて、こういう風になっていくんだという生き様もさしながらもスキーを続けていきたいなと思っています。とくに膝が悪くて昨シーズンはぜんぜん滑れませんでした。人工関

節を埋め込みましたが、一度失敗して感染症ということで入院して、普通なら 1 ヶ月で済むものが組織細胞が再生しなければ次の手術はできないと言われた。今シーズンはそういう状態の中でもスキーに乗ることができた。お正月にも行って高齢者のスキーの在り方ということで小川コーチについて滑らせてもらったが、私を含めて他にも高齢者がいて、障害者のようなチームになったが対応して頂いた。田畑さんと同じく 80 歳だが、鳥海山の頂上まで行って滑って降りてきました。こんな高齢者にも対応してくれてスキーの経験ができるのはスキー協ならではないかと思う。そういう経験をまとめていけばいいのではないかと思う。

身体的なことに加えて、気力の点が重要になってくる。体力が伴わないから気力もなくなってくということもあると思う。また筋力も落ちてくると思いますが、高齢者はお金の金力もだいぶ落ちてくる。耳が聞こえないこともある。人が言っていること、打ち合わせ事項とかでも耳が聞こえなければよく分からない。それ自体がみんなと行けるチャンスを奪うことにつながっていくと思う。目ももちろん見えなくなってくる、いろんな障害が出てきてもスキーが好きでまだやっている。人に迷惑をかけるわけはなくなってきたりするが、私は人に迷惑をかけてもいいや、と凶々しく行かせてもらっています。そういう組織はなかなかない。そういうところはスキー協の売りになるのではないか。子どもも自由に動けない、そういう弱いところが売りにできるようなるスキー協であってほしいと思います。

テーマ別討論

《3》 技術向上の重要性と指導員の役割

山口実佳さん (てんとおむし)

会員を増やすための指導員の役割についての報告をします。私たちのクラブに千葉在住の会員がいる関係で、千葉のスキー祭典に参加したとき、千葉にはクラブが 2 クラブしたが、3 つになれば千葉スキー協ができる聞き、私たちのクラブには船橋に 6 名の会員がいましたので、その人たちを中心にクラブを作り千葉スキー協が設立されました。みなとシュプール



の北川さん、ともしびの八藤後さんの協力を得て、指導員の中心になって頂いています。また千葉でも指導員の献身的な姿を見て指導員を受検する人が増え、昨シーズンのてんとおむしのレベルアップ研修に千葉から3名が参加しています。そのうち1名が合格しています。

クラブ行事の中で重要なことはこれから先スキー協の会員を増やす上で指導員の力がかかせないということだと思います。東京でも指導員は十分足りていますか？ 指導員がクラブの中で力を発揮していますか？ まだまだ足りないと思います。私たちのクラブでは毎年1人以上が指導員を受検することを目標にしています。今年のスキー協の合格者は4名と聞いていますがとても少ないと思います。なぜ少ないかぜひ考えて頂きたいと思います。

今年てんとおむしから受検した人は定期預金を解約したそうです。志賀高原でのスキーセミナーや受検のために前泊しなければならず仕事を休まなければならないため仕事仲間にも嫌な目で見られたそうです。現役の労働者にとってはとても厳しいことです。それでもがんばって受検しましたが、不合格でした。精神的に大変疲れて体調を崩してしまいました。そのような状態で来年もがんばって受検しなさいとはとても言えません。本来スキーをしてストレスを発散したり楽しいものだと考えますが、受検により日常生活を犠牲にし精神的にも金銭的にも大きく負担がかかることは本末転倒だと考えます。クラブの若返りのために若い指導員が必須だと考えます。歳をとった方は若い人を入会させようとしても無理があると思います。若い人を増やしたいとスキー協のかたは言いますが、とても現役労働者のライフスタイルでは参加しやすいとは残念ながら思いません。近くて安い、そして楽しく上手になれる行事の工夫をする必要があるのではないのでしょうか。そして若くてやる気がある人をどのように指導員に押し上げていくのか、今ここに集まっているみなさんの同一の課題だと思います。

以下、全体討論の発言です。

全体討論

福島 明さん（シーハイル 教育技術局）

この一年間、教育技術局の活動の中で、新しい試



みをして少し前進したのかな、と思っています。今日の集中討議テーマのように組織的な問題と同時に技術の面は車の両輪のように両方大事だと思う。問題に入る前に、今日の

集中討議についてお話しさせて頂きたい。高齢者のための指導というお話がありました。そこのところでは私も経験があります。2月末に定年になりましたが、指導員検定では受験する人が自分より先輩ということがほとんどで、研修は、午前、午後2時間ですが、もたないのです。そんな年配のかたへの配慮が必要です。なかには耳が遠いかたも出てきます。反応がないと聞こえてないな、と判断します。そういうことも必要かなと。

問題についてですけども、教育技術局のところで3点あります。1点目は、指導員登録について、登録締め切り日を守れないクラブが複数あります。指導員は休止も含めて108名います。全国の登録期限は9月末ですが、待ってもらっています。全国からデータがまもなく来ますので、例年より1か月前倒して時間を設けさせて頂きたい。2点目は、指導員検定の理論検定についてです。3月の雪上検定のときには済ませていましたが、指導員要項を読みますと、理論研修と雪上研修を終了していなければならないとなっています。ところが今までは雪上研修が終わる前に行っていた。それは要項違反なんですね。昨今、指導員要項をHPに載せたりする関係で、他ブロックからも受検することもあり問題が起きました。全国からの指導もあり、土曜の夜にペーパーテストをすることになりました。これは決定です。3点目、これは教程の改定の件です。来年の秋にスキー協の教程を改定するという事になっています。昨日も教程製作委員会が行われました。東京からは、小川、出崎、私、福島は全国の技術委員をやっている関係で委員になっています。今日お配りしたセミナーの案内で、荻原さんではなく若い岡田さんに講師をお願いしています。今までと違うところは、ターン中の重心の位置、傾きの量、非常にシンプルで分かりやすいものになっている。来シーズンのテーマは、もうできていますが、中央研修会やブロックの検定会では、180度ひっくり返るといっても、部分的に改良、そんなストーリーで進めています。

川上咲子さん（中野スノー）



第25回クラブ交流駅伝 クラブの交流を賑やかに、について発言します。クラブ交流駅伝の話を何度かしていますが、去年は4クラブで27名、バーベキューもやって賑やかだったんですけど、うちのクラブもそうですけど、クラブでスキーができなくて、駅伝も人数が少ないので今回は8クラブくらい参加になればいいな、と思っています。5km走りますがこれまで中学生も参加しています。野球仲間とかも誘って参加されています。7/22日土曜、反核平和マラソンを行います。杉並から休憩しながら走っています。もし周りの方で走りたい方がいればぜひ参加してください。競争ではないので、少しでも参加者が増えたらいいなと思っています。

長谷川保一さん（コロポックル）

スキー協は48年になりますが、生まれたときと現在では時代の要請、構成年齢が変わってきているのではないかな。そういう状況の中では組織の在り方、企画、行事の中身を根本的に見直す必要があるのではないかな、という観点から発言します。

とくに越年スキーは昨年も今年も赤字になっている。これはスキー協の財政の圧迫になっていると思う。実行委員のかたも一生懸命やっているのはわかるけれども、一生懸命やって赤字なら仕方がないではなく、やっぱり見直す時期にきているのではないかな。方向としては例えば三多摩の様々なクラブでやっている行事を紹介してそこに乗せてもらう、あるいはスキー協に加盟しているクラブの正月行事に参加させてもらうなど。ただ組織の在り方としてみんな意見を出し合って、方向性を束ねて、予算を組んで、仲間を募って、そういう一つ一つの積み重ねがあって組織が成長していくという理屈も成り立つわけですけど、その努力は並大抵ではないと思うんですね。手っ取り早い話をするなら既存の商品を買うほうが安いんですよ。たとえば私たちのクラブでは、A社のNo.1という商品を申し込みなさい、と。実行委員は負荷を追わない。現地に行って楽しむ。そこで例えば1,000円、2,000円事務費を集めて収益にする。そういうやりかたをしたほうがいいんじゃないかという気がします。やっぱりみなさん少しで

も安くやりたいと思う。やっぱり企画のありかたを見直していく必要があるのではないかな。

私どもはネイチャースキーを年1回やっています。戸隠、霧ヶ峰そういったところをハイキングがてら歩くスキー。これも実費精算で毎回10名くらい集まってくる。そういった課題ごとのテーマ、ネイチャースキーで集まりましょう、レベルアップで集まりましょう、深雪で集まりましょう、そういうテーマ立てをしながら赤字を出さない企画を今あらためて考えてみる必要があるのではないかな。今改めて考える必要があるということをご提案したいと思います。

川上咲子さん（中野スノー）

今の長谷川さんに相反するような意見になります。うちのクラブはマイカーを持っている人がなくて、スノージャンボリーはクラブで毎回参加しているのですが、今のところ夜行バスや新幹線を利用して参加しています。職場にスキーをやりたい人がいるのだけどバスが出なくなって誘いたいと思っても言い出せない。一般の人を誘うにはバスがいいかなと思っています。午前中の発言であった、新幹線の後バスを乗り継ぐと方法もあるのかなと思うのですが、現地集合といとなかなか誘うことができない。できれば小型でのバスを出せる方法で出来ないかなと思います。3月ということでクラブでも行事が多く、私としてはジャンボリーはバスがいいかなと思います。小さいクラブなので、バスを仕立てる行事に参加できればいいかなと思います。なかなか結果は出ていませんが、人を誘う面でもなんとかバス行事ができないかなと思っています。

大川真吾さん（みなとしゅぷーる）



昨年のクラブの総会で3つのことをやりますということになりました。会員7名の中で4人が指導員。企業内のクラブですからなかなか参加者が集まらない。スキーツアーをやっています。予算は削るところを削っています。10人乗りの車を出して、1万円で済ますように春のツアーをやっていたが一万円は高いと言われ9000円に。日帰りで3000円にした。自分自身が病気で実はこのツアーも参加していませんが、一般のかたを参加させて、その中に

はてんとおむしのかたもいるので、言わば強引に成功させたということです。企業内のクラブとしてはこういう形でやるしかないのですが。

会社の中でスキーに一回だけ行ったという人が 25 人くらいいる。クラブ行事には参加しないがスキーに行っている人はいっぱいいる。私たちとしては最大公約数。今年の目標は 7000 円で行ける日帰りスキーをやろうと思っている。会社の中でスキーに行っている人とか地域でスキーをしている人を巻き込んでクラブ行事をする、外に出ていくということも必要のかなと考えています。

小川 洋さん (みなとしゅぶーる)

今年実は競技スキー委員会の事務局の手伝いをさせて頂いたのでそれについて発言します。配布している資料の中で、シーズンの報告と計画、コーチですとかがあります。ここにあるように 7 つの計画をしています。7 月、夏ですね、みなさん夏。乗鞍の残雪にポールを立て、一本滑ったら担いで上る。コーチは三増さんという、清澤恵美子さんの個人コーチをしていた、けっこう有名なコーチです。夏の山も楽しいですから、自分のペースで楽しんでもらいたい。若干プロテクター類、レガースとかパンチガードとか必要なので相談していただければと思います。競技の人しか参加しちやいけいないんじゃないか、と思われるが、ここにあるシーズンインキャンプとかかぐらスプリングキャンプとかはポールは使いません。そういう意味では競技を経験するという事は、基礎スキー上達の近道です。講師陣にしても三増さん、吉岡大輔さんという誰でも知っている元オリンピック選手や 2 度の技術選チャンピオンという方々です。一流選手の滑りを見るだけでも参考になると思いますし、アンケートを見ても技術向上の感想が多いので、技術向上にぜひ役立ててほしい。

小柳光雄さん (モルゲンローテ)

私この総会に参加してよかったなと思っています。それは各クラブでいろんな行事の取り組みの中でいろんな工夫をしている、とくに費用の面、交通手段の面、各クラブで工夫して考えているなど、大変参考になりました。私はクラブの事務局長をしていますが、今年の総会でも交流会でもクラブの情報を得たいと出ていましたが、うまく出来ていない。バスを出すこと自体苦勞して参加者集めをやらざるを得

ない。各クラブの行事を広報して欲しい。相互乗り入れも考えたいので、各クラブの行事の紹介をぜひしてほしい。バス自体を用意することが難しい中で、ぜひやってほしい。てんとおむしさんは例外的でクラブでバスを用意するのは大変難しい。ぜひクラブのほうでもやっていきたいと思うが、チラシがあればそれをそのままスキー協に送っていただいて、これは参加できるよとか、宣伝してほしい。たこ壺状態ではスキー協の発展もないと思うので、必ずしも HP ができているわけではないのでチラシを利用して東京スキー協としてまとめていただければと思います。

吉田安信さん (スノーモンスター)

東京スキー協山スキー委員会委員長の吉田です。みなさんご存知のように、山スキーとかスノーボードでの遭難事故があると新聞とか TV 等で大々的に報道されて、なかには犯罪者扱いみたいになっていることがここ 3 年くらい続いています。山スキー自体が悪いことをやっているようなイメージを持たれているんじゃないかと思う。なお且つ遭難した場合、防災ヘリの問題もある。埼玉県では防災ヘリを有料にしています。なぜ山スキーだけ公共の救出が有料になるんだろう、交通事故でケガして救急車が有料なんて聞いたことありません、海で遭難して海上保安庁だとかが有料というのは聞いたことがありません。



スキー協の山スキーの歴史は 40 数年になります。その中でずっと仲間と安全にということをしてきた。事故もありました。しかしそれを教訓に毎年山に入り安全のための訓練とかそういうことをやってきました。雪崩の対策だとか全国スキー協でも毎年山に入って救出訓練とか雪崩に対する対策とか、東京でも山スキーを安全にやってくれるために、また初めて山スキーをやる人のために、シールの付け方から、登り方を、山での滑走についての注意、地形、気象の読み方だとか、安全に楽しむためにやっています。しかし残念ながらここ数年、行事参加者が非常に少ない。去年は参加者が少なく中止になった行事もありますが、それでいいのかなと思います。

先ほども行事の経費の問題がいろいろとありまし

たが、今年も参加者1名とか、2名のことがありました。山スキー委員会でも論議をしました。やめるのは簡単です。でも委員会としての責任はどうなるんだろうということがありますので、やろうとなりました。ただコーチの費用は自腹です。持ち出しです。赤字を出すと、そんな行事やめちまえという声も出てくると思いますが、山スキー委員会の責任としてやるべきだと、今シーズンは全行事をやりました。山スキーリーダーは各クラブに何人かおられると思いますが、もう一度安全について考えて頂き、山スキーリーダーにご協力を頂きたい。会員アンケートにも山スキーをやりたいという人も多く、なおさら山スキーに関わる責任もあると思います。ぜひとも山スキーリーダーになって頂いて、リーダーたちと協力して頂きたいと思います。

長部保雄さん（三多摩山スキークラブ）



山スキー委員をしています。今吉田さんが話されましたが、実際にやった山スキー教室の状況は、かぐら3名、湯の丸3、乗鞍4 鳥海7名、八甲田5、立山8名の参加者です。スタッフも含めてですよ。この中でどうやって費用計算しているかという7名参加したらリーダーは交通費、宿泊代は出せるようにしましょう、と。はっきり言っています。ですからこのうちの4つはみんな参加したリーダー持ちです。自腹です。果たしてそれでいいのでしょうか。はっきり言ってやめたほうがいいんじゃないか。個人の負担を強いるような運動をスキー協がやっていいのか。はっきり言って議論をふっかけるわけじゃないんですけど、あえていうと年末年始スキー、ざっと言うと7万から9万の赤字、そうかといって、スキー協の運動としてそういう活動をなくしたら、スキー協ってなんだろう、山スキー委員会とはなんだろうとなる。さっき言った新雪滑走や山スキーをやりたい人が多い。たぶんやってない人がやりたいんだろうと思う。そういうことの中で、スキー協の仲間として、そこに参加していくのが必要と考えます。やりたい人がいるんだからやってみようと、クラブの中でも議論してもらって、ぜひスキー協の行事を大事にするという意味で力を出してほしい。ぜひそういうのに参加しよう、それが大事じゃないでしょ

うか。指導員のみなさんが、技術じゃなくてオーガナイザーとしてどうするのか、組織者としての上級、中級もあるんじゃないか。具体的にしていくためにもがんばって頂きたい。

増田成一さん（エーデルヴァイス）



主にクラブの運営、技術的な問題、今日のテーマが絡んでくるのですが、それに対してうちのクラブでどういうことをやったか、述べます。まず技術の面ですけど、高齢者、最大の問題はカービング以前の技術で滑っているのがあだになって、みんなのスピードについていけない、体力を使っちゃってもう疲れたから早くあがる、みたいな、そういうふうになっちゃうんですね。なぜかというターンごとにブレーキをかけて、スピードコントロールしてるんです。ブレーキをかけてぎゅーっと踏ん張って、それをきっかけに次のターンをして、ターンごとに疲れちゃって、1日持たない。緩斜面、中斜面はいいけど、急斜面でそれをやっていると1日もたない。今回野沢温泉のスキースクールで先生を雇いまして、まずメンバーに昔の滑りの人が2人いたので、その人たちを重点的にみてもらい、カービングの板に合った性能を生かした疲れにくい滑りを、他のみんなと一緒にやりました。滑走性のいい滑りで疲れないと、一定の成果が出ました。

それから運営の面で、私は80歳で現役というのが目標なんですけど、あと15年あります。そういう中でクラブの中でも70歳以上の人がかかり増えてきて、基本的に車相乗りで行事をやっているんですが、土日休みに関係ない人が増えてきたんで、今シーズンからメインの行事は朝発の2泊3日でやりました。そうすると夜の運転に比べて楽だと。あとは若いときみたいにガツガツ滑らなくてもいいや、と。午後から滑って、それでほとんどの人がのんびりできて、今までの強硬日程を変えて、気持ちも余裕ができてまあ良かったということなので、来年もそれをやることで進めています。

それからメイン行事のスキー祭典、バスを借りきっていますが、事故があってからだんだん高くなっちゃったんですね。それで一昨年はどうしようかということになり、総会で赤字が出てもメイン行事

だから会員拡大にもつながるからということをやったんですけど、10万円の赤字が出た。当初予定の倍ぐらい。これはいかんということでアンケートをとったら、料金が上がってもバスで行きたいという人が多かった。しかしそのまま高い料金にしてやるのも努力が足りないというので、とにかくバスと宿が安くなる方法をいろいろ検討をして、前夜発の2泊3日を朝発にして半泊安くした。宿もスキー協割引がきくホテル山楽が安いかなど。それで前年より安くなりました。スクールは、今までは初日にやっていたんですけど、1日目の午後と2日目の午前中ということにしました。北村スノースクールにお願いしたんですが、その結果は成功。一日でいろいろ詰め込んでも忘れちゃうと。それで半日、午後やって、

夜は先生に来てもらってビデオを見て解説してもらった。2日目はゲレンデ巡りをしながらのスクールで、志賀高原をぐるっとゲレンデツアーをしながらスクールのやってもらい、昼飯も先生と一緒に食べましょう、それでよろしいですか、ということ。そんな形でやって、なんとか前年の2.5泊の会費42,000円を38,000円に変えて2万5千円の黒字になりました。来期もそういう形で。どこのクラブもそうでしょうけど試行錯誤して、終わったら話し合っただけじゃあどうしようかということで、まあなんとか増えないんですけど減りもしないでぎりぎりです。一応参考になりましたらと発言しました。

以上

乗鞍サマーキャンプ 2017/7/14-16

人数は少ないが…贅沢なひととき！



7月14日～16日まで1.5泊の日程で「乗鞍サマーキャンプ」を開催しました。昨年は雪不足で中止になりましたが、今年は雪が多く、道路から2メートルぐらいの雪の壁を登ってコースに到着します。

講師は毎年お願いしている三増健一さん。参加者が5人しかいなく、とても贅沢なキャンプでした。天気は2日間とも良く、プルークスタンスでの基礎的なポジション練習から、ショートポール、最終的にはロングポールを使用したカリキュラムと濃い時間を過ごしました。

練習後の白濁した温泉と料理は最高でした。来年はなんとか参加者8人以上で黒字行事にしたいものです。(小川 洋)

今シーズンこそ、新しいフィールドへ 先ずは、集いへ行って、講座へ参加

頂からの滑走を求めて...

八甲田山スキー教室



山スキーの集い

2017.11.10 Fri. P.M.7:00~9:00 (開場6:30)

会場：豊島区 生活産業プラザ (8階) 多目的ホール
JR池袋駅・東口下車・徒歩約7分



《プログラム》

- ◎スキー協オリジナルビデオ等の紹介
- ◎おはなし
東京スキー協の目指す山スキー
2017-18 最新山スキー用具の紹介
東京スキー協 山スキー教室の案内・説明
各種山スキープラン
山スキーのクラブ紹介
その他
「2017年山スキー教室記録集」を頒布します。
参加費として、資料代等実費をお願いします。

会場案内図



シーズンを前に山スキーのプラン、技術、用具、安全等についての交流の集いを企画しました。ぜひお集まりください。

主催：東京都勤労者スキー協議会 山スキー委員会
東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル401
Tel 03-3971-4144

2017年5月 鳥海山山スキー教室

安全で楽しい山スキーを楽しもう

◆ ◆ ◆ ◆ 山スキー基礎講座 ◆ ◆ ◆ ◆

(兼 関東山スキーリーダー養成講座)

山スキーに必要な基礎知識を学ぶ講座です。山スキーをこれから始める人から経験者まで、どなたでも参加できます。どうしたら安全な山スキーが楽しめるのか、みんなで勉強し、事故を・遭難を未然に防ぎましょう。

日時 2017. 11. 26 (日曜日)
A.M. 10:00~P.M. 5:00
場所 豊島区 生活産業プラザ (704号室)
JR池袋駅・東口下車・徒歩約7分
定員 20人
資料代 2700円 (下記テキストを含む) 会員割引あり

内容 ①山スキーリーダー論、②読図、
③気象・積雪
教科書 山スキーリーダー養成学校テキスト
参考書 スキーシリーズII「山スキー」(全国スキー協 発行)

教育技術局からのお知らせ

【1】2017スキーセミナー（東京スキー協）

スノースポーツを多面的に学び、元気にシーズンを迎えよう！

◆2017年9月30日（土） 13:15～16:50

◆としま産業振興プラザ（IKE・Biz） 多目的ホール

（池袋駅西口より徒歩約10分、南口より約7分）

◆参加費 1,200円（事前申込みかつ事前振込の場合）、1,500円（当日支払）

◆スキー協全会員が対象です

13:00 開場

13:15～ 「指導員の役割・権利・義務、指導とは、スキーの安全について」

東京スキー協 教育技術局長 福島 明さん

14:00～ 「スキー教程カリキュラム改訂案の特徴と理由」

全国スキー協 技術部長 デモンストレーター 岡田 章男さん

15:30～ 「私のスキー人生」

舞子スノースクール 阿部 孝さん

（すべてに参加した指導員は指導員理論研修修了扱いとなります）



【2】2017年度初級・中級指導員養成・検定会（関東ブロック）

◆指導員受験説明会

2017年9月14日（木） 19:00～21:00 スポーツ連盟・スキー協事務所 401会議室

◆養成理論

2017年10月15日（日） 9:00～17:00 横浜市従会館（「桜木町」駅下車10分）

◆養成実技

2017年12月9日（土）～10日（日） 志賀高原一の瀬/高天ヶ原スキー場

◆検定会（理論、教程技術、応用技術、指導法実技）

2018年3月10日（土）～11日（日） 志賀高原一の瀬/高天ヶ原スキー場

【3】指導員理論研修（関東ブロック）

◆2017年10月15日（日） 9:00～17:00 横浜市従会館（「桜木町」駅下車10分）

【4】指導員ミーティング（東京スキー協）

◆2017年10月21日（土） 13:00～16:30 大田区消費者生活センター（「蒲田」駅下車5分）

※詳細は、東京スキー協ホームページ（<http://www.tokyoskikyo.org/>）に順次掲載していきます。

※2017年度指導員登録締切日は8月20日です

登録書類はクラブ代表者（あるいは技術関係担当者）に7月初旬にメールあるいは郵送で送付済みです。全国スキー協への登録手続き作業の関係から、例年より1か月早い締切りとしていますがご協力ください。

訃報

昨年まで東京スキー協、副理事長を務めておられた近藤安宏さんが、7月1日6時15分、ご自宅にて逝去されました。享年61歳でした。5日に通夜、6日に告別式が朝霞市斎場で執り行われました。

2014年に膀胱がんの宣告を受け、その後、背骨、大腿部、肝臓に転移し、昨年6月には副理事長を辞して治療に専念されていました。

スキー協では2014年に上級指導員に合格し、中央研修会や指導員研修等では、自身で検証・考察を重ね、経験に裏打ちされた技術で熱心に指導にあたりました。常に技術の向上に取り組み、競技スキーを愛し、外部コーチのレッスンにも積極的に参加されていました。宿での交流でスキー技術についての自身の考察を楽しそうに語る姿が印象に残っています。

3か月足らずで書き上げた自分史、「革新の風を求めて」には、幼少時代、青春時代、仕事のこと、旅行やスキーのこと、そして闘病生活のことがつづられています。組織者として、スキー愛好家として、近藤さんは多くのものを残していられました。

心よりご冥福をお祈りいたします。



information

～総務局より第50期会費、早期納入のお願い～

東京スキー協の第50期は、6月18日に行われた総会以後既に開始しています。会計年度は毎年5月1日からで、総会・全国総会等の活動費、スキー協事務所家賃、新日本スポーツ連盟の分担金、電話代等の公共料金などの支出が既に発生しております。各クラブの事情もあるかと思いますが、スキー協の会費につきまして、9月20日の締め切りを待たずに早めの納入を頂きますよう、ご協力をお願い申し上げます。

※「会員登録」の案内は、8月20日前後に組織局より郵送とメールで送付いたします。

※「指導員登録」の案内は、教育技術局より7月下旬に郵送とメールで送付済みです。

(指導員登録の締め切りは今年から8月20日になりました)

8・9月カレンダー

8月	東京スキー協	全国スキー協、他	9月	東京スキー協	全国スキー協、他
1日(火)	山スキー委員会		1日(金)		
2日(水)			2日(土)		全国山スキー部会
3日(木)	常任理事会		3日(日)		〃
4日(金)			4日(月)		
5日(土)			5日(火)	山スキー委員会	
6日(日)			6日(水)		
7日(月)	通信発送		7日(木)	常任理事会	
8日(火)			8日(金)		
9日(水)			9日(土)		
10日(木)			10日(日)		
11日(金)			11日(月)		
12日(土)			12日(火)		
13日(日)			13日(水)	広報局会議	
14日(月)			14日(木)	指導員受験説明会	スキーメイト発行
15日(火)			15日(金)		
16日(水)	広報局会議		16日(土)		
17日(木)			17日(日)		
18日(金)			18日(月)		
19日(土)			19日(火)	組織局会議	
20日(日)			20日(水)		
21日(月)		全国常任理事会	21日(木)		
22日(火)	組織局会議		22日(金)		
23日(水)			23日(土)		
24日(木)			24日(日)		全国競技部会
25日(金)			25日(月)		全国常任理事会
26日(土)			26日(火)		
27日(日)			27日(水)	教育技術局会議	
28日(月)			28日(木)		
29日(火)	通信発送		29日(金)		
30日(水)	教育技術局会議		30日(土)	技術部会/スキーセミナー	
31日(木)					

編集後記 **エビノシッポ**

会員のご要望により、東京スキー協、東京メイト系の振込口座を表紙のタイトルに入れてみましたが、いかがでしょうか。6月18日の総会も無事に終わりました。今期広報局は、専用メールの開設と各クラブのスケジュール共有の強化に取り組みます。新しいコーナーも考案中です。(k.h.)